

課題分析	授業改善推進プラン
<p><b>1 知識・技能</b> 写す線描作業はよいが、黒基調の意味や筆や用具利用の着色やカッターの使い方に格差があり、力加減がわからず、はみ出したり、各線のラインを乱したり、傷つけてしまう者がいる。</p> <p><b>2 思考・判断・表現</b> 独創性がやや乏しく、配色計画や明度の分析について、また、作図の変形作業についても失敗を恐れがちで、試行錯誤が十分にできていない。 修学旅行の事前学習としては日本美術史（仏像・建造物・庭園）を必要最低限、学ぶ必要がある。</p> <p><b>3 主体的に学習に取り組む態度</b> 透視図法を駆使した平面構成などかなりハイレベルな授業内容であるものの、より高みを目指し、時間をかけ、評定を上げようとする姿勢が見られる。進路決定への意識が高まり、集中して、取り組んでいる。</p>	<p><b>1 知識・技能</b> 着色技術が不安な者については、特に水と絵の具の割合に注意させ、<b>色の作り方については混色ノート利用を習慣化させる。</b>マスキングテープの使い方については距離を置きつつも各列で具体的に解説する。切り絵の色数不足分は増やすアドバイスをしていく。</p> <p><b>2 思考・判断・表現</b> <b>平面構成の着色については何度でもやり直せるように仕向けた。また、手順や制作のヒントを授業中、繰り返し与えて分かりやすく、完成をイメージしやすくする。遠近を感じさせる配色を配色トーンの表から示し、電子黒板にできるだけ大きく投影することによってより具体的に提示し、理解を徹底させる。</b></p> <p><b>3 主体的に学習に取り組む態度</b> 作業が遅れている者については個別指導や放課後、あるいは夏季休業中の<u>補習を行う</u>。材料や用具を充実させ、意欲をより高める。<b>制作活動時の集中力と課題を期限までに仕上げることの大切さを繰り返し説く。</b></p>